

## 5 研修生のページ

### 研修半ばとなって

#### 育成調教技術者養成研修 第25期生

BTCでは全寮制による育成調教技術者の養成研修を行っています。今号では本年4月に入講した研修生から、これまで過ごしてきた6ヶ月間の感想と今後の抱負などについて寄稿いただきました。残された半年間で、さらに多くの知識や経験を積み重ねて、たくましく成長していただきたいと思います。

#### 半年を過ぎて

原田 耕佑

僕はここに来る前は海外の外厩舎のスタッフや地方競馬の厩務員などの仕事をしていました。

馬の世話をしていく度に、だんだん馬に騎乗したいと思うようになり、BTCの育成調教技術者養成研修に入講しました。今は入講して約6ヶ月間経ちましたが、入講して直ぐに自分の不注意で右人差し指を骨折してしまい、治るまで約2ヶ月間騎乗できず、いきなりスタートでつまずいてしまったけど、逆に今は骨折して良かったと思います。馬に乗れなかった分の悔しい思いが、一鞍一鞍大事に乗っていこうという気持ちになっているからです。指の方も現在は完全に治りましたが、冬が近づいて寒くなると、骨折した所が少し痛くなります。

騎乗に関して乗り始めは上手く乗れず、教官から怒られてばかりでした。今でもたまに怒られるけど、怒られているうちにレベルアップしていきたいと思っています。

僕は他の研修所じゃ学べないことをたくさん経験させてもらっています。例えば、BTCの施設を使う事ができたり、馴致実習を

やらせてもらったことです。BTCの管理している施設は本当に素晴らしく、ここで訓練ができる自分を支えてくれる方々に感謝しています。馬の馴致も安全に進める事ができたのは、ここまでに生産牧場やJRAの関係者の方々が手をかけていたからだと思います。馴致を始める前にはもっと暴れるかと思ったけど、若馬とは思えないくらいおとなしかったです。

馴致実習を始める前に、騎乗馴致の期間中はなるべく馬を休ませない方がいいと言われてたけど、馴致の実習が始まってようやくその意味がわかりました。若馬の脳は、人が教える事を日々覚えてくれて、馬の成長が間近に感じる事ができました。もちろんいきなり乗るのではなくて、前々から馬には十分な安心感を与えるために訓練をしています。僕は馬の騎乗馴致が一番危ないと思いました。最終的にはロンギ場内での常歩、速歩および駆歩がコントロール出来るようになったので良かったです。今、僕が乗っているBTCの馬達も馴致を乗り越えてきたんだなと思いました。

BTCでは馬に乗れることだけではなく、課外研修があって牧場実習や札幌競馬場見学などに行きました。牧場実習ではトレセンから休養に来てる馬に乗せてもらったり、研

修所では体験できないこともやりました。普段はキャンターしかやったことがないのに、実習先の牧場では坂路をギャロップで駆け上がっていきました。初めての経験で馬を抑える事ができず馬につかまっているので精一杯でした。今だったら前よりは抑えられる気がします。

競馬場見学では、普段はテレビでしか見ることができない競馬を久しぶりに生で見れたことが楽しかったです。

こんな感じで馬に乗るだけでなく、色々な行事があって楽しく研修生活を送っています。

ケガのため2ヶ月の間馬に乗るのが遅れたことは大きいけれど、まだ半年の時間があるので、周りとは関係なく自分自身の技術レベルを上げて、牧場の即戦力になれるように頑張りたいと思います。

## 上級課程に向けて

齊藤 真哉

自分達第25期生は、13名全員が上級課程に進めることができました。これまでの基本課程の6ヶ月間では、騎乗訓練や学科そして色々な行事や牧場実習など初めての自分にとっては様々なことを学ぶことができました。

騎乗の訓練では、最初の頃は乗るだけで精一杯でしたが、段々と乗っている中で周りにも気を使いながら、そして何より楽しく乗れるということが感じられるようになりました。馬に乗るという事は、とっても危険なこともあります。乗っている時は、とても気持ちが良く楽しいです。

上級に上がってまた、一段と違った騎乗があると思いますが、もっと技術を磨いてそしてこれからも騎乗が楽しいと思えるように

なりたいと思います。

学科は、正直難しい所もありますが、馬の仕事をする上でしっかりと理解していれば、牧場に行ってもきっと自分の財産になることなので、今のうちからしっかりと勉強していき、よく理解したいです。そして赤点も取らないように頑張ります。

イベントでは、7月の終わりに「浦河競馬祭」が開催されました。レースの日まで馬を調教したり、飼養管理や馬体重管理などを行い、普段なかなか体験できないことがこの期間で体験できました。調教は教官からのタイム指示があり、緊張もしましたが、いつもの騎乗訓練とはまた違った騎乗ができて楽しかったです。飼料は、調教メニューや馬体重の増減や馬の様子などを見ながら作りました。

レース当日も初めての馬運車に乗ることができ、すごく貴重な体験ができました。レース前は馬にもわかるのか、すごくテンションが高くなり、普段とは違う様子だったりしました。

レースでは、惜しくも結果的に一着は取れませんでした。みんなが精一杯やり、馬も精一杯走ってくれたので、悔しい気持ちもありますが納得のいく結果でもありました。馬をレースに出すまでの、大変さがよく分かりました。

8月には、2週間の牧場実習がありました。牧場では、日頃BTCで行っているやり方と違いがあり、最初は覚えることが大変でした。牧場では一杯怒られたりもしましたが、馬を預かっているので当然なことでした。騎乗も乗馬とは違い、真っ直ぐ走らなかったり、急に飛んだり苦労したりもしました。それでも、スタッフの方々も一生懸命色々指導してくださって、最後の方は馴れてくることができました。2週間実習をしてみて、まだまだ自分に足りない所もたくさんありましたが、自信になったこともあり、とても充実した牧

場実習でした。

現在、自分達は馬の馴致をしています。まだ人に慣れていない1歳馬を一から教えています。一日一日馬がすごく成長していくのが実感でき、嬉しさもあります。馬も一生懸命覚えていってくれているので、自分達も全力で馬に教えていってあげたいです。馴致が終わった時に、どれだけ馬が成長しているかととても楽しみです。

研修が始まり、この6ヶ月間はとても早く過ぎ去った感じです。一日一日を大事にして、みんな揃って卒業がしたいです。これからもご指導をよろしく願います。

## 6ヶ月を終えて

櫻田 翔太

研修が始まってからもう6ヶ月が経ちました。正直、入講して半年も経ったなんて信じられません。1日1日過ぎていくのがとても早く、覚えたいこともまだまだたくさんあり、毎日必死です。

騎乗訓練では800m走路はじめBTCの管理する色々な施設を使わせていただいたりして、今ではほとんどの馬場を走りました。その中でもグラス坂路は、走っていて気持ちよくて自分の中では一番好きな場所です。騎乗も併走するだけでなく、単走から併走にするというフォーメーションもできるようになり、ここまで出来るようになるなんて確実にレベルが上がっているのだと思います。

「浦河競馬祭」では、1頭1頭の調教メニューや管理の仕方があり、いつもの訓練とは違うことも学んだりできました。また、競馬祭の調教を任せてもらった時はすごく緊張しました。失敗してしまった時は悔しいし落ち込んだりもしましたが、みんなが励ましてくれたりして、かなり励みになりました。

調教がうまくいった時は、すごく嬉しいし何よりホッとします。その中でも、競馬祭前日の調教の時は一番プレッシャーを感じた騎乗でした。結果は惜しくも2着が最高でしたが、最後の直線での3頭の争いは、全員が声援を送って熱くなりました。優勝は出来ませんでした。それに等しいくらいの充実感を得ることができたし、何よりも多くのことを学びました。

8月には牧場実習があり、これまで学んだことが実際に通用するのか、また、今まで居た仲間ともバラバラになり不安でいっぱいでしたが、現場の仕事や雰囲気を感じられる絶好の機会だったので楽しみでもありました。この実習を受けて、また成長できたと思うし、とても良い経験になりました。

9月後半から馴致実習が始まりました。まだ、何も知らない若馬は、ほんの少しのことで驚いたりして、常に声をかけ慎重に優しく接して安心感を与えてあげることが大事です。焦らず少しずつでも馬を成長させてあげられる様にしていき、気がつく前は駄目だったことがすんなり出来るようになっていたりして、その時はすごく嬉しく感じる事が出来ました。約2週間という短い期間でしたが、何もわからない若馬が人を乗せて走るまでになり、成長力の凄さを感じる事ができてとても貴重な体験になりました。今、自分達が乗っている乗馬たちもこのような馴致を行い、その後もしっかりとした扱いを受けていたからおとなしく乗りやすい馬に育つことが出来たと思います。自分も次に接する人が、扱いやすい馬だと思える様に、今いる馬達やこれから出会う馬に接することができたら良いと思っています。今は、まだまだ技術的にも知識の面でも未熟だし、レベルアップしなくてはならないことが多いのですが、研修期間の残りの1日1日を大切に、もっと成長して今居る仲間と笑顔で卒業することができればいいと思っています。

## ただ上を目指す

羽石 大逸

研修を始めて、6ヶ月間が経ちました。僕にとってこの6ヶ月は、全員が想像以上に成長し、大きな技術を学んだと感じています。

僕は、馬を扱う仕事をする技術を学びたくてこの研修を受けました。馬の仕事をしたかったのは、小さい頃から動物が大好きでその中でも馬が好きでした。高校生から乗馬を始めました。この乗馬が研修を受けた一番の切っ掛けだと思います。騎乗が上手い人を見ていて、その人より上手になりたいという向上心を持つようになりました。この研修でも同じでした。同じ研修生よりは乗れるようになりたいと常に思っていました。

騎乗訓練で民間の牧場関係者も使うBTC調教場に行かせてもらおうと、そこでは、見る人見る人皆上手だと思っています。でも、まだ上があるならもっと上手になりたいと思って日々努力しています。

シミュレーターには、ほぼ毎日乗っていて、その日に学んだことや、反省、良いスタイルの維持などを自分なりに取り組んでいます。筋トレは1日置きではありませんが行い、入講した頃よりは筋力がアップしました。これからも続けていきたいと思っています。

この6ヶ月間で、僕の騎乗技術は向上したと思います。やはり、騎乗技術のレベルアップに大きく貢献したのは「浦河競馬祭」でした。レースに出走したのは3頭でしたが、4頭に対して研修生全員と教官で真剣に調教を行いました。競馬みたいに本格的に調教や馬の管理を行う様になりました。草競馬と言っても、競馬は競馬なので沢山のことを学びました。

調教面では、今に継がっている技術をもらいました。必ずタイムを指示されました。最初のタイムがどれくらいで15秒とか18

秒とかわかりませんでした。しかし、何度も乗せてもらっているうちに、タイムも感覚で覚えることが出来ました。1秒1秒の差がわかりました。また、BTCの坂路や屋内直線、ダート1,600mなど色々な場所で騎乗することもできたのでとても楽しかったです。屋内坂路では、1ハロン11秒台というのも体験することができました。ジョッキーみたいな気分で気持ち良かったです。

管理面では、牧場に就職した時に使える競走馬の治療や馬の管理を学びました。速い調教の時と遅い調教の時は、飼葉の与える種類、肢の管理など調教の運動量だけでこんなに違うのだと感じました。また、駈歩ではなく常歩の大切さを知りました。常歩は、最初はただ歩くだけみたいなものだと思っていて乗っている時も気にはしていませんでした。そして、僕が一番競馬祭で得た大きなことは、「馬の肢を馬房に入ったら触る」と言うことです。競馬祭が終わっても肢を確認することは出来ています。肢を触るといふ癖を付けた方がいいということを知りました。それほど馬の肢が大切であることを理解しました学びました。残りのあと6ヶ月間、この研修で悔いを残さないように頑張ります。

## 半年間を振り返ってみて

深田 久典

僕にとって半年間は、とても長かったとも言えるし、とても短かったとも言えます。僕が18年間生きてきた中で、1番濃密な時期だったと言うことは、間違いないと思っています。

今年の4月に入講してから、経験することは何から何まで始めてで、やれ馬装だの、騎乗だの、厩舎作業だと覚えなければいけないことだらけで、もうパニック状態でした。お

まけに、物覚えがあまりよくなく、皆から取り残されていくということが起こりました。皆がどんどん上達していく、それなのに相変わらず出来ない自分。気持ちばかり焦って、全く上手いかないと言う日々は本当に辛かったです。

僕は人生の中で、おそらく必ずこの壁にぶち当たらなければいけなかったのですが、それを18歳と比較的若い年齢で体験出来たことは、とても良かったと思っています。

今は、たいが慣れてきましたが、新しいことを習う際は、戸惑いを隠すことが出来ません。“成長のスピードが早くなればいいな”と今でも思うし、“どうして、自分だけ何故こんなに出来ないのだろう。”と落胆することが未だにあります。それでも以前の様に、自己嫌悪に陥ることは少なくなりました。この半年間で、“自分はこういう人間なんだ。”ということを経験することが出来たからです。今までも自分自身の性質には薄々気付いていましたが、それを認めたくなかったし、そんなことはないと言い聞かせていた部分もありました。それがBTCに来てからは、自分の性質に関して認めざるを得ませんでした。しかし、頭ではわかっているにもかかわらず事実を受け入れることができません。自分自身の性質を受け入れるには、時間もかなりかかったし、葛藤もありましたが、最近では「俺は俺さ！」と思えるようになりました。そういう風に思う様になれば、なんだか今まで、“なぜそういう風に考えられなかったのか？”と不思議な気持ちになってくるくらい爽快です。自分個人の感想としては、ようやく一皮剥けたかと思っています。

今は、ブレイキングの実習を行っていて思ったのですが、若馬も僕らも、悩み、戸惑いながらも前に進んでいくと言うことは、馬と人間と言う違いはあっても、行っていることは何ら変わらないのではないかと考える様になりました。馬によって性格がバラバラで

す。その性格に合わせて馴致を行っていくわけですが、そこで大切だと思っているのが、馬も人間も前に進む過程は何ら変わらないと言うことです。馬の気持ちを考えてみる時、自分に置き換えて、考える様にしています。そうすることにより、少しでも馬の為になればと思っています。

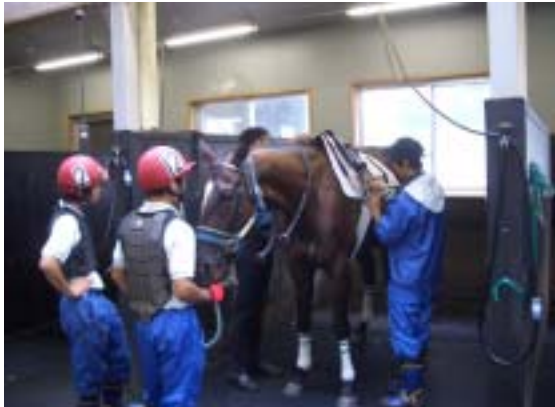
そういう考えや馬の扱いについて、教官方に丁寧に粘り強く教えて頂きました。本当に感謝しています。そして、落ち込んだ時、困っている時に助けてくれた仲間達にも同様に感謝しています。どちらにもまだ迷惑を掛けると思いますが、これからもよろしくお願い致します。



#### 牧場見学

未来のスターホースや有名な種牡馬を見学

それぞれの牧場のノウハウを間近で見学できました。



浦河競馬

雨の中、勝利に向けて皆一丸となりました。



馴致実習

馬への一つ一つの動作がすべて馴致になります。



上級課程に進み訓練中

写真は研修用800mトラックでの3騎併走

